

&lt;報道関係各位&gt;

ギリアド・サイエンシズ株式会社

“未来～これから” 写真・絵画コンテスト 2017  
～ C型肝炎からの卒業、より明るい未来へ ～  
**グランプリに、写真：長谷川様(島根)、絵画：古川様(東京)  
受賞決定**

「C型肝炎」克服の道のりと想いを表した“ペイシエントアート” 90作品の頂点に

ギリアド・サイエンシズ株式会社（以下「ギリアド」、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：折原祐治）は、国内 150 万～200 万人いると推定<sup>\*1</sup>される C 型肝炎ウイルス感染者を啓発し、同感染疾患の撲滅と感染者への社会的支援の輪を広げていこうと、本年初めて企画した「“未来～これから” 写真・絵画コンテスト 2017 ～C型肝炎からの卒業、より明るい未来へ～」の表彰式を 10 月 6 日（金）帝国ホテルにて行い、上位 6 名の入賞者の方々を表彰いたしました。

表彰式では、審査を経て選ばれた写真ならびに絵画部門のグランプリ・準グランプリの入賞者のご臨席の下、会場内に上位入賞作品 6 点を展示。本企画の初代スペシャルプレゼンターとなる女優・中田喜子さんにご登壇いただき、入賞者へのねぎらいの言葉と賞状・副賞の授与を行いました。

本コンテストでは、C 型肝炎を患い治療に専念されている、もしくは既に克服された方を対象に、治療を終えた後のご自身の明るい未来・夢・理想・希望を表現した「写真」「絵画」を本年 5 月より募集。全国より寄せられた合計 90 点の応募作品の中から書類審査を通過した作品について、米澤敦子さん（東京肝臓友の会 事務局長）、同疾患治療の権威である八橋弘先生（独立行政法人国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター長）のご協力を得て、審査選考をさせていただきました。



C 型肝炎の治療は進歩し、今や克服可能な疾患として認識されています。しかしながら C 型肝炎ウイルスの感染者は依然として存在し続け、近年では、性的接触や刺青（タトゥー）などで知らぬ間に感染に至るなど、医療機関での早期受診や検査を後押しする啓発活動も不可欠となりました。

“沈黙の臓器”とも言われる肝臓は、自覚症状がでにくく、炎症が長期化すると、肝硬変、肝がんのリスクが高まります。当社では、C 型肝炎治療薬を提供する企業の社会的責任として、C 型肝炎に対する社会の理解をより深めていただくためにも、C 型肝炎を軽視せず、早期受診や治療のきっかけをサポートする社会づくりを、本コンテスト等を通じて目指していく所存です。

<sup>\*1</sup>日本肝臓学会 編: 慢性肝炎・肝硬変の診療ガイド 2016, 2, 文光堂, 2016

<本件に関するお問い合わせ先>

“未来～これから” 写真・絵画コンテスト 2017 広報代行 株式会社ブレインズ・カンパニー 越水、木明(きめい)  
TEL: 03-3568-3844 FAX: 03-3568-3838 E-mail: gilead\_pr@pjbc.co.jp

## ■ 入賞者発表

### <写真部門>

グランプリ	「今 これから」	長谷川公子 様	(島根県安来市)
準グランプリ	「芽吹きとともに」	村上孝子 様	(東京都文京区)
	「希望のかけはし」	太田昌子 様	(佐賀県佐賀市)

### <絵画部門>

グランプリ	「向日葵」	古川春美 様	(東京都練馬区)
準グランプリ	「わたしの宝」	大原美智子 様	(和歌山県有田郡)
	「幸せ色に包まれて～北海道北竜町」	大橋春菜子 様	(神奈川県川崎市)

## ■ 募集審査について

募集期間 : 2017年5月8日(月)～8月31日(木)

募集作品 : C型肝炎の治療を終えた後のご自身の明るい未来・夢・理想・希望を表現する写真、または絵画

※「絵画」は、油彩、水彩、イラスト、ちぎり絵のいずれか

テーマ : 「未来～これから」

応募資格 : C型慢性肝炎を治療中の方、または治療を終えられた方

※国内在住者に限らせていただきます。

※当社治療薬を服用したことがある方に限らずご応募いただけます。

審査委員 : 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター長 八橋弘 先生  
東京肝臓友の会 事務局長 米澤敦子 様

ギリアド・サイエンシズ株式会社 代表取締役社長 折原祐治

## ■ 審査委員からの総評

### 八橋弘 先生 (独立行政法人国立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター長)

どんな作品が選ばれるのか非常に未知数でしたが、「作品」と、その作品への「想い」を合わせて読むと、非常に深いものになっていったと思います。そのため、それぞれの作品を評価する際は、とても悩みました。今回応募された作品を見ると、このコンテストならではの作品が多く、患者さんの想いが込められた個性豊かな作品が揃ったのではないかと思います。

### 米澤敦子 様 (東京肝臓友の会 事務局長)

作品を審査するにあたっては、作品について説明するコメントの影響がとても大きかったです。私は、常日頃から患者さんとお話をする機会があるのですが、ご応募いただいた作品に記載されている患者さんの想いは、まさに患者さんの生の声であると感じました。ご応募された方の率直な想いが作品の中に色濃く反映されており、結果、唯一無二の写真・絵画に仕上がったのだなと思います。

## ギリアド・サイエンシズについて

ギリアド・サイエンシズは、医療ニーズがまだ十分に満たされない分野において、革新的な治療を創出、開発、製品化するバイオフーマ企業です。会社の使命は、生命を脅かす難病を抱える世界中の患者さんのために医療を向上させることです。カリフォルニア州フォスターシティに本社を置き、世界30か国以上で事業を行っています。

“未来～これから” 写真・絵画コンテスト 2017  
グランプリ・準グランプリ作品

## 【グランプリ】

### <写真部門>

#### 「今　これから」 ハセガワキミコ 長谷川公子 様（島根県安来市）



#### 作品への想い

肝炎治療を終えて安堵していた頃に孫に恵まれました。これからの私は病気の心配をする事もなく孫たちの成長を楽しみに生きていけると、強く握った小さな手を見て感じました。

#### ➤ 寸評

C型肝炎ウイルスを持っているとき、患者さんは、気持ちとして移してしまうのではないかという思いがあり、孫を抱けなかったのですが、治ったので思いきり抱きしめられますという声をよく聞くので、この作品は、非常にシンボリックだと思います。

### <絵画部門>

#### 「向日葵」 フルカワハルミ 古川春美 様（東京都練馬区）



#### 作品への想い

3年半前、新薬（ギリアド治験）のおかげでC型肝炎は完治した。長年の気がかりから解放された。夢、希望...と問われれば、なぜかひまわりを連想する。数年前訪れた山梨・明野村のひまわりを思い出して描いてみた。太陽へ向かって咲き誇るひまわりを...

#### ➤ 寸評

やはり向日葵という花は、シンボリックな花ですね。

「“夢”、“希望”と問われれば、なぜかひまわりを連想する。太陽へ向かって咲き誇るひまわりを思い出して描いた作品。」というエピソードは、共感を呼ぶところだと思います。また、プロっぽさが無く、明るく元気な印象で、C型肝炎が治った時の気持ちがすごく出ている作品だと思います。

## 【準グランプリ】（写真部門）

### 「芽吹きとともに」 ムラカミタカコ 村上孝子様（東京都文京区）



#### 作品への想い

3度も失敗した治療の後、飲み薬での4度目の治療が昨年7月に終わりました。今年の4月はまだ「検出せず」でした。そして一人で行ったベルギーの小さな村で見た並木道。明るい空、芽吹きを迎えた樹々そして遠くに見えるかわいい家々。私も一緒に春を迎えたい、今度こそ！

#### ➤ 寸評

上に昇っていくような勢いを感じます。  
また、空がすごく広がって見えるので、明るい未来をイメージさせる作品だと思います。

この方は、何度も治療を行い、ウイルスが検出されない結果が出た後、ベルギーの小さな村で見た並木道を撮影した時の“明るい未来”を予感させる心情を述べられていて、そのお話も、とても惹かれました。

### 「希望のかけはし」 オオタマサコ 太田昌子様（佐賀県佐賀市）



#### 作品への想い

2015年待ちに待った経口薬治療が現実となった。その5年前2010年、自分の身体をなくしてさえもインターフェロンを続けたいと願ったが、強い副作用とウイルスの増殖を前に無惨に治療は叶わなかった。東日本大震災と重なり、私は希望を見失っていた。それでも少しずつまわりの愛情に支えられ自分を取り戻していった。そして6年後の2016年、何の副作用もなく、C型肝炎ウイルスを排除できた。

今、元気に患者会の活動もできるようになりました。先日、県庁の健康増進課におじゃました時、振り返ると長い廊下のむこうにキラキラ輝く緑が見え、今の私の気持ちとぴったり重なってしまいました。まだ治療が見いだせない患者さん達とのかけはしになればと思います。感謝の思いと共に。

#### ➤ 寸評

物凄くストーリー性がある作品です。  
病気から治ったという感じがして、このコンテストならではないかと思います。

また、C型肝炎を克服するまでの闘病に関するコメントがすごいです。写真そのものというより、写した方の想いがよく表れており、構図も変わっていて素敵な写真だと思いました。

## 【準グランプリ】（絵画部門）

### 「わたしの宝」 オオハラミチコ 大原美智子様（和歌山県有田郡）



#### 作品への想い

42才にC型肝炎と云われて済生会有田病院内科 長崎 Dr.に治療を受けることに。それから辛いインターフェロン注射他...副作用で倒れそうになった時も...長い長い戦いでした。2016年2月から1日1錠毎日服用だけ2ヶ月続け、やっと完治することに。2017年6月11日70才になり子供達が集まり（子供4人、孫6人）古希のお祝いをしてくれました。皆元気で顔を見た時の幸せ、今も忘れません。これからも続けばと祈るばかりです。

#### ➤ 寸評

躍動感がある作品。プロの方では無く、患者さんの気持ちがそのまま絵に描かれているところが良いと思います。お孫さん6人とご自身が描かれている絵ですね。本当にストレートに喜びが表現されている印象を受けて、すてきだと思います。

### 「幸せ色に包まれて～北海道北竜町」

オオハシハナコ  
大橋春菜子様（神奈川県川崎市）



#### 作品への想い

C型肝炎治療はインターフェロン+薬療法で治りました。その後大好きな北海道を夫婦で巡っています。旅行中、私の心中を表すような光景に出会いました。なんか、明日も良い事がありそうな...

#### ➤ 寸評

力作です。ご夫婦を描いているというのが、良いなと思います。ひまわりという花も、絵としてすごく魅力的。

大好きな北海道旅行を、ご夫婦でされている喜びに溢れている作品だと思います。

「写真部門」佳作7作品

作品	氏名	作品タイトル	作品への想い
	カンダ トヨタウ 神田豊太郎 様	雪もみじの谷	昨秋11月24日「奥多摩に雪の可能性」との情報に飛びつき車に飛び乗り奥多摩方面に向かう。頭に浮かぶのはむかし道の巨樹「いろは楓」と雪のコラボ。 到着した当時の光景は正に想定通りで雪は盛んに降りそそぎ、紅葉まっただ中の楓の木は悠然と構えて、それは見事な堂々たる姿であった。この年始め、私のC型肝炎が完治、喜びの光景ともなった。
	コウラ ヨシハル 高良慶治 様	祈り	昨年夏、投薬治療を終え、採血に依る検査に入った。写真は2017年2月16日木の根っこが水面から出て来たものだが、人が拝んでいる様に見えるシャッターを切った。この3日前にも検査の為採血。信仰心など無い私だが「ウイルス出ないで」との思いが撮らせた写真では？と思う。
	ウメノ ヒデカズ 梅野秀和 様	ムツゴロウの恋ダンス	広大な干潟で有名な有明海で、雄のムツゴロウたちが繰り返し飛び跳ねて雌にアピールする求愛の季節到来。つぶらな瞳に背びれを大きく広げ必死に飛び姿に、恋の成就を祈る。
	ナガエ ヒサオ 長江久男 様	未来へ	遠くに稚児を抱いて坂を上がる人の姿は未来へと一步一步進む母親のたくましさを感じられた。雲もそれを応援するかのように直線をなびかせていた。美しいバラの花を手前に大写真未来を祝福しました。
	ウマタニ レンジ 馬谷錬治 様	花 咲かそう	信じられないほど効用のある薬が出来たのです。C型肝炎ウイルスが消えて、一年以上も経過し、後期高齢者の私は「気分は青春」です。未来～これからコンテストを知り、近所の小学校へヒマワリを撮影に出かけました。学童たちが種を蒔いたヒマワリがまさに見ごろ。「未来を一杯に」含んだヒマワリの種の美しさに「明るい未来をいただいた」気がする自分の心情を託しました。 平成5年10月から始まった23年間にわたる私のC型肝炎との戦い。インターフェロンは効果なく、副作用が激しく、苦しい思い出です。ペグインターフェロン、これも副作用に耐えられず、あきらめました。この間、週一回のミノファゲン注射は続けました。平成28年2月、医師に勧められ服用開始したハーボニー配合錠は全く副作用がなく、服用後すぐに「ウイルス検出せず」の報告、信じられない嬉しさでした。この薬を開発された皆様と服用を勧めてくれた医師・看護婦さん達、皆様に感謝。そして支えてくれた家族に感謝です。
	マエバ イヅミ 前波和泉 様	蓮の花	「C型肝炎では死なせない」天野秀雄・聡子著、やっと読み終えることが出来ました。18年前にC型肝炎肝硬変と診断されて「東京肝臓友の会」に入れていただき電話相談でご指導していただきました。「私はまだ子供達が小さく死ねないので、この病気が完治するのは時間の問題です。いい薬が出来ているのですよ」そう熱く語って下さった先生には残念ながら間に合いませんでしたが、こうして私は生きながらえることが出来ました。 夏の陽に揺られながら蓮池を歩いていると人の命とはこの世のものだけではなく未来へと永劫につながっているのかと…。私からあなたへ。そう願いつつ、凜として慎ましく咲いている白い蓮に思わずシャッターを切っていました。
	オオエ マサシ 大江雅史 様	夏の空	治療完了 この言葉を聞いたときの気持ち それは何者にも代えがたい貴重な瞬間 心の中は青空に白い雲が浮かぶ晴れやかなものでした。

## 「絵画部門」入賞7作品

作品	氏名	作品タイトル	作品への想い
	ムラオカ アツシ 村岡敦 様	開眼・服薬から満願・SVR成就！	<p>未来だるまの両眼の目を入れる事が出来ました。私は子どもの時心臓手術のカルテに血清肝炎(C型肝炎)との記載があり、二十数年前に当時は健康保険で一生に1回と決められていたインターフェロン療法を受けて以来、一瞬もウイルス陰性に成らず、肝硬変初期との肝生検診断を受け憔悴。</p> <p>私たち難治性患者にとっては新薬が出る度に期待と結果への辟易で疲れ果てたものの、ハーボニー錠でついにウイルスを排除できた感動！両眼が開き、未来へ心おきなく邁進する事ができます。ありがとうございます。</p>
	ナイトウ エツコ 内藤えつ子 様	喜びの血	<p>血液検査を続ける事40年近く。良いお薬のお陰で、飲むだけで回復、驚きでした。長いこと会社勤め、いつも、鉛の様な重い体で会社に。働いて疲れているのかと我慢を続けていました。定年後もやはり重い体は同じでした。</p> <p>治療のお陰でだるさの無い体を知りました。その喜びを絵に表現してみました。いつも血液とのお付き合いが頭から離れませんでした。C型いつも特別扱いでしたから。やっと解放されました。これからは赤くてきれいな血液とのお付き合いです。そんな嬉しい、これからを描きました。</p>
	イノウエ ハツエ 井上初枝 様	感謝	<p>何の治療もする気になれなかった私。ハーボニーの名を見て「これだ」と確信。東京・八王子肝友会の仲間、東海病院の先生に背中を押されて良い結果を見る事が出来ました。ありがとうの想い実りました。</p>
	トヨシマ ミチヨ 豊島通子 様	ポンポコ狸さん	<p>C型肝炎で40年近くあちらこちらの病院へ通院しましたが治らず、楽しみとして拝画を習いました。その時出会ったこの画、いまこの画の明るさにひかれ病氣も治り幸せな日々を送っています。</p>
	ソメミチ ミチヨ 染道三千代 様	楽(たのし)	<p>長年C型肝炎との戦いで苦しい日々が続き、どうしてこんな体になったのか悩んだ日々もあり、お陰で治療も軽く三ヶ月という短期間で副作用も無く何十年ぶりでしょうか元氣になりこれからの人生は楽しいものにしていきたいと思えます。</p>
	タベラ ユウイチ 田平勇一 様	グラバー邸にて	<p>全国的にも有名なグラバー邸を描きました。小高い所にあり、眼下には青い海が広がり、船の汽笛と近くの教会の鐘がなって、異国情緒の雰囲気を感じながら描きました。</p>
	ワダ ハツコ 和田初子 様	自問自答	<p>ウイルス慢性C型肝炎、肝硬変の患者です。30年以上治療中。今回入院中に知りました。生命を戴いてたとえ病苦で不安な日常を過ごしていながらも、治療で希望と奇跡を願い、周りの人達に紅色を見た時の様に少しでもホットな気持ちになってもらえたら嬉しい…そんな気持ちで作りました。自分自身を慰めているのかも知れません。</p>

※本プレスリリース中にある20作品および発表会の写真データはご掲載いただけません。データは、右記URLよりダウンロードください。<http://urx.mobi/Gibu>